

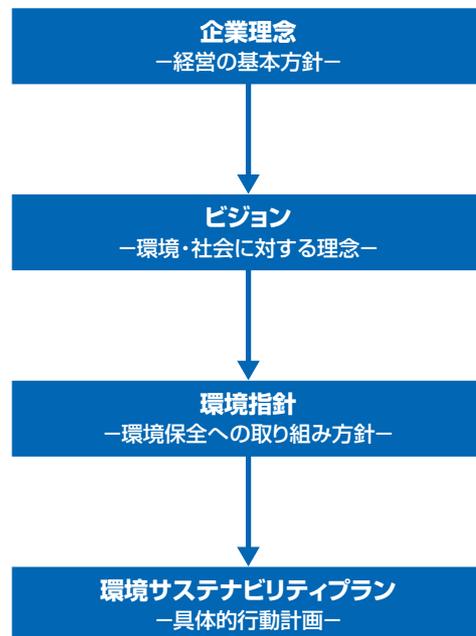
# 環境活動

## 環境マネジメント

### 環境指針

三菱ふそうは2004年に策定した「企業理念」および「ビジョン」（詳しくはP.4を参照）で、「社会的責任」を第一に掲げ、「積極的な社会貢献を通じ、社会の一員として責任を果たす」ことを明言しています。そして、従来どおり当社としての「環境指針」を掲げ、環境保全を最重要課題の一つと認識し、関連会社、取引先の協力を得て継続的に環境保全に取り組むことを表明しています。

このビジョンと環境指針を全ての製品、サービス等に反映するため「環境サステナビリティプラン」（P.7参照）を設定し、具体的な環境保全活動を推進しています。



### 三菱ふそう環境指針

#### 基本指針

地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し

- (1) グローバルな視野に立ち、車に関する開発、購買、生産、販売、サービスなど全ての企業活動の中で総力を結集し、環境への負荷低減に継続的に取り組みます。
- (2) 社会を構成する良き企業市民として、積極的に地域や社会の環境保全活動に取り組みます。

#### 行動基準

- (1) 製品のライフサイクル全ての段階において、環境への影響を予測評価し、環境保全に努める。

<重点取り組み>

- 温室効果ガスの排出量を削減して地球温暖化防止に努める。
- 環境汚染物質の排出を抑制し、汚染の防止に努める。
- 省資源、リサイクルを推進し、資源の有効活用と廃棄物の低減に努める。

- (2) 環境マネジメントの充実に努め、継続的に環境改善に取り組む。
- (3) 環境規制、協定を遵守し、自主管理目標を設定して環境保全に取り組む。
- (4) 国内外の関連会社や取引先などと協力し、環境保全に取り組む。
- (5) 環境情報を積極的に公開し、地域や社会との相互理解に努める。



## 環境取り組み組織

三菱ふそうは、製品開発・生産・販売等、全体に渡る環境保全取り組みの向上を図るため、以下に述べる環境会議体制を運営しています。

### ■環境会議

三菱ふそうは、2003年から社長を議長とする「環境会議」を設置し、全社的な環境保全活動を推進しています。

環境会議は傘下に「商品部会」「生産部会」「環境マネジメント・リサイクル部会」を置いて原則年1回開催し、社の環境保全への取り組みの基本方針を定めるとともに、傘下の各部会が提案した事項について、審議・決定しています。

環境会議で決定した基本方針を基に、各部会が各年度の具体的な行動計画「アクションプラン」を作成し、関連する各部門が取り組みを推進しています。また、その進捗状況を各部会事務局が定期的にフォローアップしています。

### ■環境担当組織

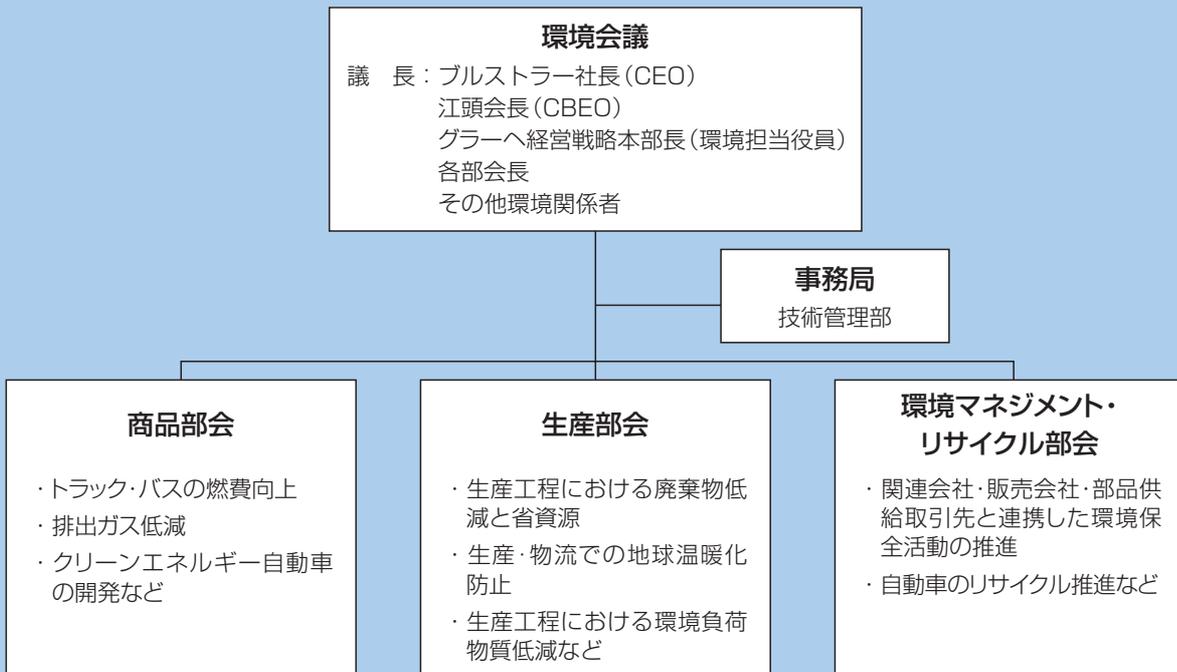
三菱ふそうは、三菱自動車から完全に分社した2003年1月に、全社的な環境保全活動を推進する組織として技術管理部を設置しました。技術管理部は、環境会議の事務局を勤めるとともに、環境戦略の立案と活動の推進取りまとめを行っています。

### ■環境サステナビリティプラン

三菱ふそうは、次ページに説明する「環境サステナビリティプラン」により、22項目の目標を設定して活動を実施しています。

今後もこれらの目標達成を目指して、その進捗状況を厳しくフォローアップし、その結果を毎年この報告書で社会に公表していきます。

## 三菱ふそうの環境組織体制



# 環境活動

## 環境マネジメント

### 環境サステナビリティプラン

三菱ふそうは三菱自動車との分社前の2002年6月、5年程度を目安とした中期計画「環境サステナビリティプラン」を策定し、2003年1月の分社後、三菱ふそう独自のものに改訂しました。このプランでは環境マネジメント、リサイクル、地球温暖化防止、環境汚染防止の4つの観点から具体的な目標を掲げています。この中期計画に基づき年度毎に目標を立て、それに従ってそれぞれの活動を推進してその結果

を評価しています。活動の詳細については各項目の参照ページをご覧ください。

2004年度は全社で品質問題を第一優先としたため、環境活動には多くの工数をかけられず、満足のいく進捗を得られませんでした。今後、会社再生とともに環境活動にも積極的に取り組んでいく所存です。

#### 環境サステナビリティプラン

##### 1) 環境マネジメント

分類	項目	中期目標
国内・海外生産関連会社との連携	ISO14001認証の取得推進	●関連会社のISO14001取得拠点を拡大
	国内生産関連会社との連携	●グループ工場環境連絡会開催と「工場環境トピックス」の発行(2回/年)
販売会社との連携	環境マネジメントシステムの構築支援	●販売会社での環境マネジメントシステムの構築支援
情報公開	環境に関する情報公開	●環境報告書の発行 ●インターネットによる環境情報の公開
取引先との連携(グリーン調達)	ISO14001認証の取得推進	●主要取引先全てでISO14001またはEA21の認証の取得(2004年度末)

##### 2) リサイクル

分類	項目	中期目標
自動車のリサイクル推進	国内/欧州の自動車リサイクル法への対応	●リサイクル実効率95%の達成に寄与するための取り組み ・国内リサイクルシステム構築への協力 ・製品の更なるリサイクル容易化への研究・推進(事前評価、リサイクルに配慮した材料の開発、リサイクル容易化構造・リサイクル材の使用拡大等) ・環境負荷物質(鉛、水銀、六価クロム、カドミウム)使用禁止/削減推進 ●架装物リサイクル推進への協力
生産工程における廃棄物低減と省資源	埋立処分量のゼロ化	●廃棄物発生量に対する埋立処分率0.1%以下を維持管理
	リサイクルの推進	●リサイクル率98%以上を継続
	生産工程での副産物の発生抑制	●売上高当たり発生量(金属屑)を2002年度実績以下に低減(2010年度末)
	水資源の有効利用	●水使用量を2000年度比5%削減(循環利用の拡大等による)(2005年度末)

##### 3) 地球温暖化防止

分類	項目	中期目標
自動車の燃費低減	トラック・バスの燃費低減	●燃料消費の更なる低減
エアコン冷媒への対応	フロン系冷媒HFC134a使用量の削減	●冷媒使用量削減したエアコンシステムの採用拡大
	HFC134aを使わないエアコンの開発促進	●CO <sub>2</sub> 冷媒エアコンの開発促進(エアコン機器メーカーと共同)
交通流円滑化	車両データ通信による運行管理システムの開発	●運行管理システムの開発促進
生産・物流での対応	CO <sub>2</sub> の排出抑制(工場の省エネ)	●CO <sub>2</sub> 総排出量:1990年度比20%以上低減(2010年度末)
	物流におけるCO <sub>2</sub> の排出抑制	●出荷台数当たりCO <sub>2</sub> 排出量:2000年度比10%以上低減(2005年度末)
	梱包、包装資材の低減	●木材梱包ケースの売上高当たり使用量:2000年度比15%以上低減(2005年度末)

##### 4) 環境汚染防止

分類	項目	中期目標
低公害車等の開発・普及	クリーンエネルギー車の市場導入	●ハイブリッド電気自動車の市場導入
	国内・海外の排出ガス規制への対応	●規制適合車のタイムリーな市場導入
騒音低減	国内・海外の騒音規制への対応	●規制適合車のタイムリーな市場導入
生産工程における環境負荷物質の低減	VOC排出抑制	●キャブ塗装工程でVOCの排出削減 目標:20g/m <sup>2</sup> 以下(2007年度末)
	電着塗装の鉛フリー化	●トラックキャブ電着塗装ラインの鉛フリー化推進(2004年度末)



取引先の82%がISO14001(又はEA21)認証を取得しましたが100%には至りませんでした。今後も100%を目指して活動を継続していきます。

生産工程での副産物については、売上げ高減少の影響を大きく受けて「売上げ高当たりの発生量」が増加しましたが、今後も削減努力を続けます。水使用量については、目標値を

上回りましたが、CO<sub>2</sub>総排出量は2010年度目標を前倒しで達成し、一層の省エネ活動を継続中です。

2005年1月に本格施行された自動車リサイクル法に対しては、社内各部門の連携が奏効して確実な取り組み体制を構築し、活動中です。

## 2004年度の目標と実績

○：達成 ×：未達成

### 1) 環境マネジメント

2004年度 目標	2004年度 実績	評価	参照頁
●対象なし	—	—	9
●グループ工場環境連絡会と工場環境トピックスの発行(2回/年)	グループ工場連絡会を6月に開催しトピックスを6月に発行(1回/年のみ実施)	×	10
●環境マネジメントシステムの運営支援	環境マネジメントシステムの運営支援を継続実施	○	26
●2004年度版環境報告書の発行	2004年12月、2004年版環境報告書を発行	○	11
●環境情報の随時公開	ホームページにて環境情報を随時公開	○	
●主要取引先全てにおけるISO14001またはEA21の認証取得	年度末時点で主要取引先の82%が認証取得	×	20

### 2) リサイクル

2004年度 目標	2004年度 実績	評価	参照頁
●国内リサイクルシステムの必須データである既販車両の装備情報及び料金情報等の適切な作成・提供	既販車両(170万台)の装備情報及び料金情報作成・提供	○	27, 28
●自動車リサイクル法に対応した理解・啓発活動	架装物ガイドライン、架装物チラシ等の作成、配布	○	
●廃棄物発生量に対する埋処分率0.1%以下の維持管理	廃棄物発生量に対する埋処分率0.004%	○	22
●リサイクル率98%以上の継続	リサイクル率99.4%	○	22
●売上高あたりの発生量(金属屑)を2002年度以下に低減	売上高あたりの発生量0.0662t/百万円(2002年度比17%増)	×	22
●水使用量を2000年度比5%削減	水使用量:914千m <sup>3</sup> /年(2000年度比22%増)	×	23

### 3) 地球温暖化防止

2004年度 目標	2004年度 実績	評価	参照頁
●低燃費コンポーネントの開発	燃費低減効果・耐久性確認試験実施	○	14
●冷媒使用量を削減したエアコンの順次採用	中型トラック用に採用	○	15
●CO <sub>2</sub> 冷媒エアコンの開発促進	エアコン機器メーカーと技術連絡会実施	○	15
●運行管理システムの開発促進	市場走行データ収集 ダイムラークライスラー社との協業推進	○	18
●CO <sub>2</sub> 総排出量:1990年度比20%以上削減	CO <sub>2</sub> 総排出量:1990年度比37.7%減(目標達成)	○	21
●出荷台数当たりCO <sub>2</sub> 排出量:2000年度比8%以上低減	出荷台数当たりCO <sub>2</sub> 排出量:44.9kg(2000年度比10%低減)	○	25
●木材梱包ケースの売上高当たり使用量:2000年度比12%以上低減	木材梱包ケースの売上高当たり使用量:合計42.1%低減 木材△40.5%、合板△44.8%(2000年度比)	○	25

### 4) 環境汚染防止

2004年度 目標	2004年度 実績	評価	参照頁
●ハイブリッド電気自動車の開発促進	「キャンターHEV」を東京モーターショーに出展	○	17
●各規制適合車のタイムリーな市場導入	新短期超低PM適合車発売:中型トラック(2004年6月)	○	16
●各規制適合車の開発	各国規制適合車を開発中	○	17
●VOC削減方法の検討	塗装工場リニューアル計画に合わせVOCの削減を検討完了	○	23
●トラックキャブ電着塗装ラインの鉛フリー化推進	2004年4月鉛フリー化完了	○	24

# 環境活動

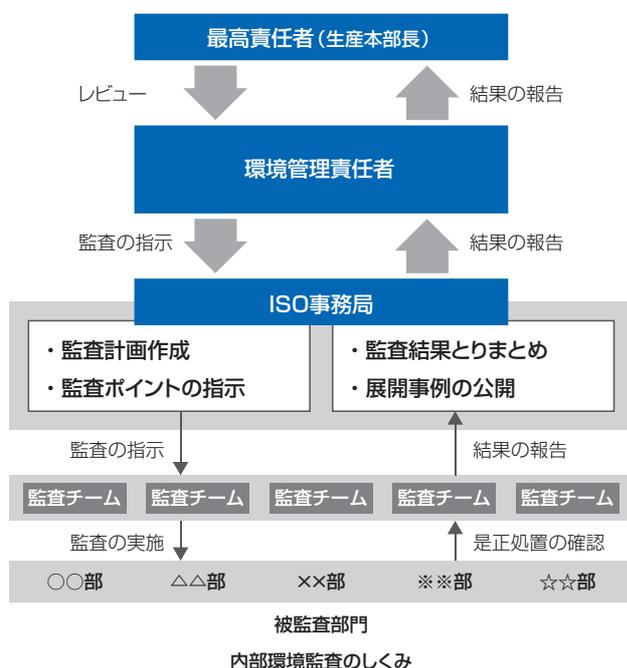
## 環境マネジメント

### 環境監査

環境マネジメントシステムが有効に機能していることを確認するため、部門毎に少なくとも年1回の内部監査と、第三者機関による年1回の外部監査を受けており、環境マネジメントシステムの適正維持・改善に努めています。

内部監査では、資格認定制度により社内外の教育を受けて認定された内部監査員(社員)が600~700項目に及び環境関連項目を確認します。そこで指摘を受けた事項については、最高責任者のチェック&レビューを受け、的確な是正措置を実施しています。また、被監査部門の取り組みで特に優れた点については、全部門へ広く展開する仕組みとなっています。

ちなみに、2004年度の外部監査では、不適合の指摘はなく、観察事項4件の指摘を受けました。全体としては環境マネジメントが適正に運用・維持されているとの評価をいただいています。指摘事項については直ちにシステムの是正を行うとともに、引き続きよりレベルの高いシステムの運用を目指し努力していきます。



### 緊急時対応、環境に関する事故など

#### ■緊急時対応

工場の生産活動においては、安全操業と環境負荷低減のために、適正な運転基準・作業標準を定めて、安定した操業の維持管理に努めています。地震などの天災や日常の作業の中で予想される緊急事態を想定し、最善の方法で対処できるように、「緊急時の対応方法」を定めて定期的に対応訓練を実施しています。

#### ■事故

2004年度は、環境に関連した事故はありませんでした。

#### ■苦情

2004年度に地域の方からの苦情は16件あり内訳は、騒音が3件、臭気が4件、その他工場周囲の植栽等に関連するものが9件でした。苦情に対しては原因究明・発生源対策等の改善に努めていますが、中には因果関係について更なる詳細な調査が必要なものもあり、引き続き工場周辺の定期パトロール等によるモニタリングを実施していきます。

#### ■訴訟

環境に関する訴訟については、ありませんでした。

#### ■環境に関するリコール

大型バスの騒音防止装置に関するリコール(届出番号1276)を2004年10月20日に国土交通省に届けました。詳細については三菱ふそうホームページの「リコール情報」欄をご参照下さい。

(<http://www.mitsubishi-fuso.com/jp/news/recall.html>)

### ISO14001への取り組み

三菱ふそうでは、環境取り組みの透明性、信頼性を確保するために、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証をまず製作所において取得しました。

2002年12月には、三菱ふそう川崎製作所の認可更新にあわせて、「開発・設計業務に関する環境マネジメントシステム」についてもISO14001の認証を取得しました。

また、国内・海外の主要関連会社でも認証取得を進めており、下記のように認証取得を完了しています。

三菱ふそう	川崎製作所	1999年 12月
	開発部門	2002年 12月
国内関連会社	(株)パプコ	2000年 6月
	三菱ふそうテクノメタル(株)	2003年 3月
	三菱ふそうバス製造(株)	2003年 12月
海外関連会社	MFTT(タイ)	2001年 6月
	MFTE(ポルトガル)	2002年 2月



## 関連会社の取り組み

### ■国内関連会社との連携

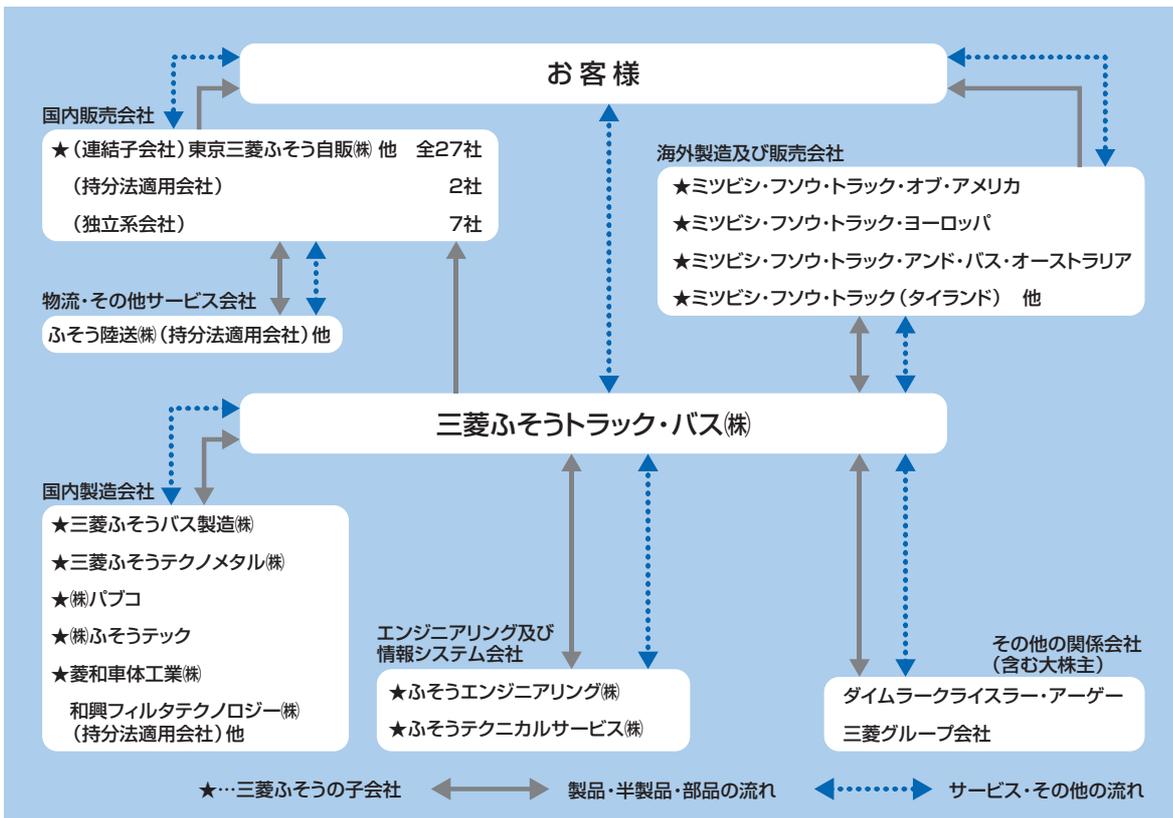
三菱ふそうでは、生産関係の主要関連3社との間で1年に1回「工場環境連絡会」を開催して、三菱ふそうと同レベルの環境取り組みの推進を図るとともに、相互の情報交換を行っています。

2002年度以来各社とも「中期環境行動計画」を策定し、半年毎に進捗確認を実施しています。

また、関連取引先約40社を対象に年1回「工場環境トピックス」を発行し、法規制の動向、環境問題に関する情報提供を行っています。



工場環境トピックス



お客様と三菱ふそうトラック・バス株式会社グループのかかわり

# 環境活動

## 環境マネジメント

### コミュニケーション

三菱ふそうは、インターネットホームページ等を中心に、環境情報の提供に努めています。

#### ■「環境報告書」の発行

三菱ふそうの環境報告書は、2004年から日本語版と英語版の2ヶ国語で発行し、冊子での配布と、インターネット／イントラネットホームページ上での閲覧という2つの方法で社の内外へ公開しています。なお、1999年から2003年までは三菱自動車の環境報告書の中でトラック・バス部門として公開してまいりました。

三菱自動車	初版	1999年9月
三菱自動車	第2号	2000年8月
三菱自動車	第3号	2001年9月
三菱自動車	第4号	2002年10月
三菱自動車/三菱ふそう	第5号	2003年7月
三菱ふそう	初版	2004年12月
三菱ふそう(本誌)	第2号	2005年

#### ■インターネットでの情報提供

環境活動を社内外に向けて広く紹介するために、環境ホームページ「三菱ふそうの環境への取り組み」を開設しています。この中では、過去の環境報告書や、トラック・バスに関わる規制や低公害車開発への取り組み、主要車種の環境情報など、環境に関する情報をまとめています。

なお、環境報告書ではカバーしきれない最新の環境関連情報について、報道機関向けにプレスリリースを発行するとともに、同内容をインターネットホームページ上で逐次公開しています。



環境への取り組みのトップページ  
(<http://www.mitsubishi-fuso.com/ECO/index.html>)

#### ■外部行事への協力

##### 省エネ低公害車関係

低公害車の普及広報活動として各地で開催される展示会やフェアなどに、各種の低公害車を展示しています。2004年度以降の参加実績は下表のとおりです。

行事名	主催	実施日	開催場所
低公害車セミナー岐阜	運輸低公害車普及機構 他	2004年11月18日	羽島市文化センター(岐阜県)
自動車技術展「人とくるまのテクノロジー展」	自動車技術会	2005年5月18日～20日	パシフィック横浜(神奈川県)
エコカーワールド2005	環境省・環境再生保全機構・横浜市他	2005年6月11日～12日	横浜みなとみらい21地区(神奈川県)
さいたま市天然ガス自動車普及促進セミナー	さいたま市天然ガス自動車普及促進協議会他	2005年6月23日	埼玉スタジアム2002(埼玉県)



人とくるまのテクノロジー展の新長期規制対応小型車用エンジン



エコカーワールド2005出展のハイブリッドバス



## 社内教育／啓発

三菱ふそうでは環境問題に関する世の中の動向や社の環境方針を社員全員がよく理解し、環境保全への意識を高めるために、様々な教育／啓発活動を実施しています。

### ■階層別社員教育

ISO事務局などの環境担当部門が中心となり、各階層の社員を対象とした社内教育を実施しています。

### ■社内外の環境関連資格の取得推進

三菱ふそうでは、社員が環境関連の公的資格を取得することを推奨しています。主な資格の所有者数は下表のとおりです。

区 分		合計(人)
公害防止管理者	大気	6
	ダイオキシン	2
	水質	11
	騒音・振動	17
エネルギー管理士	熱	9
	電気	4

### ■環境月間の活動

環境省は毎年6月を「環境月間」と位置づけ各種啓発事業を展開しており、三菱ふそうもそれに応じて下表の活動を推進し、社内の環境意識を高めることに努めています。

項 目	内 容
啓発活動	・ 環境月間行事の社内PR (社内報への掲載・ポスターの掲示)
	・ 環境月間ポスターコンクールの実施 等
実践活動	・ 環境施設の点検パトロール
	・ クリーン奉仕活動(工場外周清掃等)の実施

## 環境会計

三菱ふそうの環境会計は環境省の環境会計ガイドライン2005年版を参考としています。

2004年度の環境保全コスト<sup>※1</sup>の売上げ高に占める比率は2.8%です。前年度より約8億円増加しました。特に自動車リサイクル法施行に伴い、システム構築・運営の費用(下流コスト)として約3億円を計上しました。

2004年度から、従来の環境保全コストに加え、環境保全効果<sup>※2</sup>および環境保全対策に伴う経済効果<sup>※3</sup>を算出しました。環境保全効果の詳細は「環境負荷低減への取り組み」の各ページをご覧ください。

経済効果の大半は廃棄物のリサイクルに伴う収益が占めています。

分 類	03年度	04年度	増 減	
(1) 事業エリア内コスト	1,547	1,746	+56	
内 訳	① 公害防止コスト	487	501	(+14)
	② 地球環境保全コスト	889	906	(+17)
	③ 資源循環コスト	315 <sup>※4</sup>	340	(+25)
(2) 上・下流コスト	0	308	+308	
(3) 管理活動コスト	28	164	+137	
(4) 研究開発コスト	11,799	12,059	+260	
(5) 社会活動コスト	73	89	+16	
(6) 環境損傷対応コスト	1	1	0	
合 計	13,591 <sup>※4</sup>	14,368	+777	

環境保全コスト(単位:百万円)

項目(単位)	03年度	04年度	削減量
(1) 事業活動に投入する資源に関する環境保全効果			
総エネルギー投入量(10 <sup>10</sup> J)	2,546	2,505	41
PRTR対象物質投入量(t)	1,423	1,190	233
水資源投入量(千m <sup>3</sup> )	895	914	-19
(2) 事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する環境保全効果			
生産でのCO <sub>2</sub> 排出量(千t)	121.3	119.1	2.2
完成車輸送時のCO <sub>2</sub> 排出量(t)	3,008	2,550	458
PRTR対象物質排出量・移動量 <sup>※5</sup> (t)	389	336	53
廃棄物発生量(t)	37,000	38,000	-1,000
廃棄物最終処分量(t)	7.1	1.7	5.4

環境保全効果

分 類	項 目	金額 (百万円)
収益	廃棄物のリサイクルに伴う収益	354
	エネルギー費用の削減	53
費用節減 <sup>※6</sup>	廃棄物処理費用の削減	10
	用水購入費用の削減	0
合 計		417

環境保全対策に伴う経済効果

### ■ 解 説

※1 環境保全コスト：(1)各製作所における省エネ、省資源、廃棄物処理などの環境対策に係るコスト (2)使用済み部品の回収などのコスト(3)ISO14001、社員への環境教育などのコスト (4)燃費低減、排出ガス低減などの研究開発に係るコスト (5)環境関連の外部団体への寄付金などのコスト (6)国等への賦課金などのコスト

※2 環境保全効果：環境負荷の発生防止、制御または回避などの効果を物理量で表したものの。

※3 環境保全対策に伴う経済効果：環境保全対策を進めた結果、企業等の利益に貢献した効果を貨幣単位で表したものの。

※4 昨年度(2004年版)の環境報告書の当該データは誤りでした。お詫び申し上げます。 ※5 「移動量」からは廃棄物を除く。 ※6 対象年度実績と前年度実績の差を「効果」として算出した。